

Abstract:

**PURPOSE:** To improve a display effect by a method wherein the glass sheet on the surface side of a plurality of glass sheets, with which an openable door is formed, is increased to a value higher than that of the other sheet, and the trimming width of a door frame exposed to the surface side is decreased to a value lower than that of the door frame exposed to the back side.

**CONSTITUTION:** A French openable door 11 located at the front of a show case 1 forms heat insulating structure in which a plurality clear glass sheets, for example, three glass sheets 12a, 12b, and 12c are laminated with a small gap therebetween. The glass sheet 12a on the outermost side is formed in size larger than those of other glass sheets 12b and 12c. A door frame 12 is formed by, for example, an aluminum extrusion-molded material and supports and holds the three glass sheets, out one glass sheet 12a on the surface side is held with a narrow trimming part (d). Other two glass sheets 12b and 12c are held between a nip formed by the glass sheet 12a and the back edge of the door frame 13 to ensure necessary strength. As a result, the trimming width of the door frame is eminently reduced, as seen from the surface side of the show case, and by increasing the area of a glass sheet part performing a function as the show case, a commodity display effect can be improved.

## ⑫ 公開特許公報(A) 平2-146488

⑤Int. Cl.<sup>5</sup>

F 25 D 23/02

識別記号

3 0 2  
3 0 4 C

庁内整理番号

7001-3L  
7001-3L

⑬公開 平成2年(1990)6月5日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭発明の名称 ショーケース

⑰特 願 昭63-301455

⑱出 願 昭63(1988)11月29日

⑲発 明 者 溝 渕 憲 洋 大阪府茨木市太田東芝町1-6 株式会社東芝大阪工場内  
⑳出 願 人 株 式 会 社 東 芝 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地  
㉑代 理 人 弁理士 大 胡 典 夫

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

ショーケース

## 2. 特許請求の範囲

キャビネット内に食品等を収納展示するよう構成され、前記キャビネットの前部には、相互間に小間隙をなして複数枚のガラス板を重ね合せ、これ等を扉枠で支えてなる開閉扉を設けたショーケースにおいて、前記開閉扉を形成する複数枚のガラス板のうち、表側のガラス板を他のガラス板より大形とし、表側に表れる扉枠の縁取りの幅が裏側よりも狭くなるよう構成したことを特徴とするショーケース。

## 3. 発明の詳細な説明

〔発明の目的〕

(産業上の利用分野)

この発明は、特に営業用として例えば飲食物等の販売展示用として使用されるショーケースの改良に関する。

(従来技術)

従来から、営業用として冷凍・冷蔵食品等を収納し、展示販売するのに、第3図に示すようなショーケース1が使用される。

このようなショーケースは、最近次第に大形化し、リーチインショーケースと称されるように、人が上下左右に両手を広げた程度の大きさを持つものまで使用されるようになってきている。

このような大形のショーケースは、大容積を持つだけに特に冷凍・冷蔵効果が損なわないように、キャビネット前面の開閉扉11は小間隙をもって複数枚、例えば第4図にその一部断面を示すように3重のガラス板12a, 12b, 12cを組合わせたことにより、必要な断熱効果が得られるよう構成される。断熱あるいは密閉効果は3重のガラス板とともにこれら相互間の空気層によって更に高められる。

ガラス板12a, 12b, 12cは大形形状をなすので、これ自体かなりの重量となり、第3図にも示すように特に視音開きの扉では、扉枠13は頑丈に作られ、その上下左右の縁どり幅(D)も広いものとなる。

即ち、従来のショーケース1における開閉扉11の構造を、第4図により開閉取手14が取り付けられた扉枠13の部分で説明すると、まず各ガラス板12a, 12b, 12c間には鋼板材からなるスペーサ15、及びシール材16が嵌込まれ各ガラス間が接着固定される。

ガラス板12a, 12b, 12cの端部はこれ等を覆い挟持するようにパッキング17を介して、扉枠13が嵌込み固定される。扉枠13は、相当の強度が必要とされるので、例えばアルミニウムの押出し成形材が使用される。

この扉枠13の裏面には、キャビネット枠に接触し扉の開閉動作に伴い着脱自在となるように磁石18aを収容したガasket18が取り付けられている。

以上構成の従来のショーケースは、扉枠13が複数枚のガラス板12a, 12b, 12cを嵌込み、開閉操作時の機械的応力の繰返しに耐え得る程度の強度を持つ必要があることから、扉枠13の幅(D)は相当の大きさ(例えば約40mm)を占める。

しかしながら、幅広の扉枠13はそれだけショー

ケース内を見通すガラス部分(縦w1×横w2)を狭くすることとなり、外観上出来るだけ収容ケース内が広いように見せたいとする要請には応えがたいものであった。

(発明が解決しようとする課題)

従来のショーケースは、ガラス板を縁どる扉枠の幅が比較的広く、結果的にガラス面の面積が狭まることから、ショーケースとしての外観を阻害する要因となった。

そこでこの発明は、扉枠の幅を狭め、外観上のガラス板面積をより拡大することによって、ショーケースとしての陳列効果を高め得ることを目的とするものである。

[発明の構成]

(課題を解決するための手段)

この発明は、キャビネット内は食品等を収納展示するよう構成され、キャビネットの前部には、相互間に小間隙をなして複数枚のガラス板を重ね合せこれ等を扉枠で支えてなる開閉扉を設けたショーケースにおいて、前記開閉扉を形成する複数

枚のガラス板のうち、表側のガラス板を他のガラス板より大形とし、表側に表れる扉枠の縁取りの幅が裏側よりも狭くなるよう構成したことを特徴とする。

(作用)

この発明によるショーケースは、小間隙をなして重ねて配列される複数枚のガラス板の内、表側のガラス板の面積をより大きなもので構成し、それとともに、扉枠は表側に出る部分の縁取り幅を裏側より狭くすることができるものである。

即ち、表側のガラス板を除く他の裏側のガラス板については、従来と同様に扉枠の幅広い部分で支え強度を確保するとともに、表側に面したガラス板のみ幅の狭い縁取り部分で支えたものである。

従って、従来と同じ大きさのショーケースと比較した場合、扉枠としての強度を確保しつつ、外側から見た扉枠の部分の幅は狭まり、見掛け上ショーケース容積が拡大した印象を与えることができるものである。

(実施例)

以下、この発明によるショーケースの実施例を図面を参照し詳細に説明する。

第1図はこの発明によるショーケースの一実施例を示す正面図、第2図は第1図において、A-A線から矢印方向を見た一部断面図である。

なお、第3図ないし第4図と同一構成には同一符号を付して詳細な説明は省略する。

即ち、ショーケース1前面の観音開きの開閉扉11は、小間隙をもって複数枚例えば3枚の透明なガラス板12a, 12b, 12cを重ねた断熱構造が採られている。一番表側のガラス板12aは他のガラス板12b, 12cより大形サイズに構成される。

ガラス板12a, 12b, 12cはリーチン形では大形形状をなすから、これ自体かなりの重量を持つので、扉枠13自体は従来と同様に相当の強度が要求される。

ショーケース1において、第4図と同様に、開閉取手14が取り付けられた左側の開閉扉11の端の部分の拡大図で説明すると、まず各ガラス板12a, 12b, 12c間には断面四角形の筒状パイプからなる

スペーサ15、及び合成ゴムなどからなり空気や熱を遮断するとともに各ガラス板を接着固定するシール材16が嵌込まれている。スペーサ15は例えば亜鉛めっきされた鋼板材が用いられ、中に乾燥剤15aが充填されている。

これらスペーサ15及びシール材16を挟んだガラス板12a, 12b, 12cの端部は、硬質の塩化ビニールなどからなるパッキング17を介して、扉枠13に嵌込み固定される。

3枚のガラス板12a, 12b, 12cの内、一番表側は大きさが異なるので、パッキング17の断面形状は略し字状に近く、これを介して挟持する扉枠13も同様にし字状の段差を持ったものとなる。

扉枠13は例えばアルミニウムの押出し成形材からなり、3枚のガラス板を支え保持するが、表側の1枚(ガラス板12a)は、幅の狭い(d)縁取り部で保持し、他の2枚(ガラス板12b, 12c)はガラス板12aと扉枠13の裏縁との間でともに挟持され、必要な強度が確保される。

扉枠13には取手14が取り付けられる。扉枠13の後

方には、磁石18aを収容したガスケット18が取付けられ、扉枠13の開閉動作と連動しキャビネット枠に着脱自在となる。

なお、ガラス板12aの裏側で扉枠13に該当する部分は、その裏面に化粧紙19を嵌込み内部のガラス保持部分が表側から見えないようにマスキングすることができる。また、この部分に光反射用のシートを嵌込み、いわゆるミラー効果を持たせショーケース効果を高めるようにしても良い。

以上構成によるこの発明のショーケースによれば、重ねて配置される複数枚のガラス板の内、表側のガラス板の面積をより大きなもの(縦W1×横W2)で構成し、これを他のガラス板とは別個に縁取り部で保持し、その縁取り部の幅(d)を裏側(D)より狭くすることができる。

この結果、ショーケースを表側から見た場合、扉枠の縁取り幅は著しく狭くなり、ショーケースとしての機能を果たすガラス板部分の面積が拡大することによって、商品陳列効果を高めることができる。このことは、扉全体の形状が比較的小さい

場合には、特に大きな効果が得られる。

#### [発明の効果]

以上のように、この発明によるショーケースは、キャビネット全面の透視ガラス部分の面積をより拡大して構成し、扉枠の前縁縁取り幅を狭く構成したので、ショーケースとしての商品価値を高めることができ、実用上の効果大である。

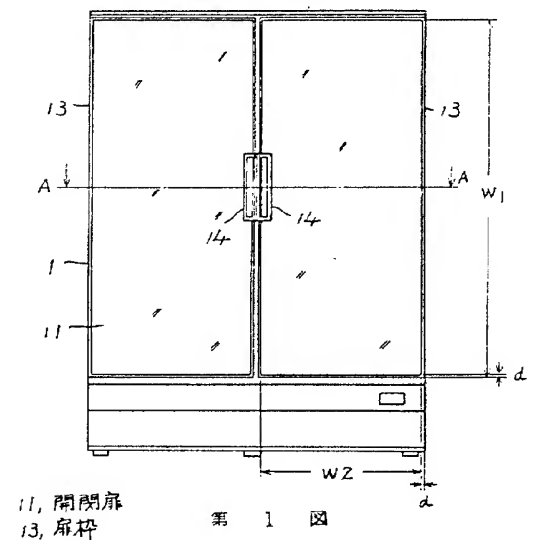
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明によるショーケースを示す正面図、第2図は第1図においてA-A線から矢印方向を見た一部断面図、第3図は従来のショーケースを示す正面図、第4図は第3図においてA-A線から矢印方向を見た一部断面図である。

1…ショーケース

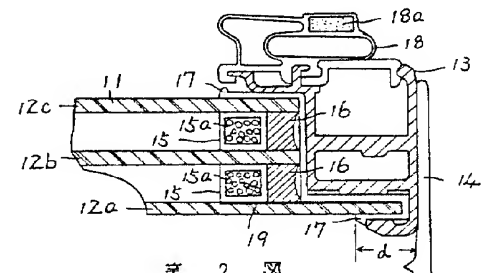
12a, 12b, 12c…ガラス板

13…扉枠



11, 開閉扉  
13, 扉枠

第 1 図



第 2 図

代理人 弁理士 大 胡 典 夫

